令和6年度 第7回 豊田市猿投台地域会議 会議録

開催日時	令和6年12月19日(木)	開会	閉会
		午後7時	午後7時55分
会場	猿投台交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：15人		
	会長：伊藤 昌明 副会長：河合 好金		
	委員：井口 俊一 加藤 明彦 北川 勝男 古賀 親 三田 美恵子		
	清水 有樹 鈴木 光司 外輪 ルリ子 塚本 政幸 中根 秀樹 原田 千枝美 藤中 佐織 本多 謙二		
欠席者	4人(伊藤 正史、末廣 洋兒、呉山 永石、春木 俊弘)		
傍聴者	なし		
事務局	猿投支所：梅村副支所長、古橋主査		
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊田市民の誓い(唱和) 2 会長あいさつ 3 令和6年度の地域課題解決事業について 4 地域課題解決事業の検証 5 わくわく事業現場確認について 6 情報共有・事務連絡 		

■ 議事(要約)

3 令和6年度の地域課題解決事業について

事務局が資料に基づき説明

- ・資料のとおり承認された。

4 地域課題解決事業の検証

事務局が資料に基づき説明し、その後3グループにわかれて、「地域防災対策向上事業」の地域会議評価と追加事業の必要性について協議を行った。各グループの意見は以下のとおり。

<Aグループ>

・事業評価

防災意識の観点では、区民が集まる行事の中で、防災意識を高めるゲームなどを行うことが良いのではないかと。また、知識の観点では、市や大学が主催する講習会に参加される方もいるが、そこで得た知識を地域住民にどう広げられるかが課題である。

・追加事業の必要性

多くの人に知識を高めてもらうには、地域住民が講習会などに足を運ぶのではなく、知識ある方々が、地域に足を運んでいただき、出前講座のような形で地域に知識を広めるような事業が必要ではないかと思う。

<Bグループ>

・事業評価

まずは、ガイドブック、マップの配付自体は評価できるが、その後どう活用されているのかよくわからないとの話となった。そして、その先どうしたらいいのかという話になった。

・追加事業の必要性

事業評価を踏まえ、情報の伝達について考えると、全市民が一斉に訓練を行うのがよいのではないかと考える。しかし、実際に訓練を実施すると参加者は少ない。地域住民に訓練を意識してもらうためには強制力を持たせるくらいの強さで呼びかけることも必要だと思う。

また、西広瀬町については、水害の危険が高いがそもそも避難先が遠いので、垂直避難できるような高い建物を建設するなど、地域ごとの課題に対する対応策が必要ではないかと思う。

<Cグループ>

・事業評価

グループ内で防災ガイドブックやマップ、黄色リボンの所有状況を確認した。こういったものは配布された際には見るが、その後放置されてしまうので、知識の継続が難しい。一回限りでなく、ブラッシュアップが必要ではないかと思う。また、猿投台地区では消防団のない自治区が多く、この点も課題だと認識している。

・追加事業の必要性

コミュニティでの活動も大切だが、自治区ごとでもよりいろいろな防災訓練をやっていけるように考えていく必要がある。

5 わくわく事業現場確認について

・勘八峡三水会 環境整備部会

上記団体の活動状況を事務局より報告

6 情報共有・事務連絡

事務局から地域会議員継続について確認、連絡を行った。

(次回の予定)

日 時：令和7年1月16日（木）午後7時から

場 所：猿投台交流館1階 多目的ホール